

子どもが
教えて
くれたいこと
⑧

親の手を離れ「社会」へ

心配や不安受け止めて

手塚由美子

4月は入園のシーズン。子どもたちは親の手から離れて、「初めての社会」に出合います。そんな子どもたちの気持ちには「言葉も生活習慣も全く知らない海外にたった一人で生活することになったときの不安に近い」と聞いたことがあります。

お母さんと一緒に知らないところも平気だったのに、お母さんがいないだけで不安になります。涙が出たり、固まってしまったり。何かに変身して強がってみる子どももいます。

泣いている子を「涙が出るくらいお母さんが大好きなんだね」と抱きしめながら優しく話します。する



絵・さこももみ

ご意見、投稿はメールkurashi@chugoku-np.co.jp ▶ ファクス082(291)5828

子どもが
教えて
くれたいこと
⑨

春からの新しい生活

親子とも疲れ出る頃

手塚由美子

5月は、春から始まった新しい生活のリズムがようやく整う頃。子どもたちは肩の力が抜けて、ささいなことに文句を書いたり、いろいろなわかって駄々をこねたりができるようになります。疲れがようやく出てくる頃でもあります。

でも連休で生活のリズムが崩れ、休みの疲れも出て、もう一度4月からのスタートのような感じに。自分の思いをしつかり出せるようになった子の親は、4月以上に大変なときを迎えます。



絵・さこももみ

子どもが文句を書いたり、駄々をこねたりするよきな姿は、親にはマイナスに映るかもしれませんが、でも実は新しい生活を全身で向き合っている証拠です。好奇心旺盛

に全神経をフルに活動させて、日々成長しているのです。そんな子どもに親にとっても、5月は疲れが出てくる頃。いつもは子どものいい所を見つけてあげるのが上手でも、この時期はマイナスな姿が目がいきがち。ついつい怒ってしまることが多くなります。「私も疲れちゃうよ」とつぶやいていたんだな」と自分を責めることが大切です。

中国新聞 2014年2月～2015年2月迄連載
フレージャー幼稚園のこどもと素敵作出版会 いは 今日
続いています